



一般社団法人
うみのこてらす
uminoco terrace



生まれた地域や環境で諦めない、
地方のこども支援モデルへ
一般社団法人うみのこてらす

海部郡の概要（海部郡）

人口

牟岐町 約3600人
海陽町 約8000人
美波町 約6000人

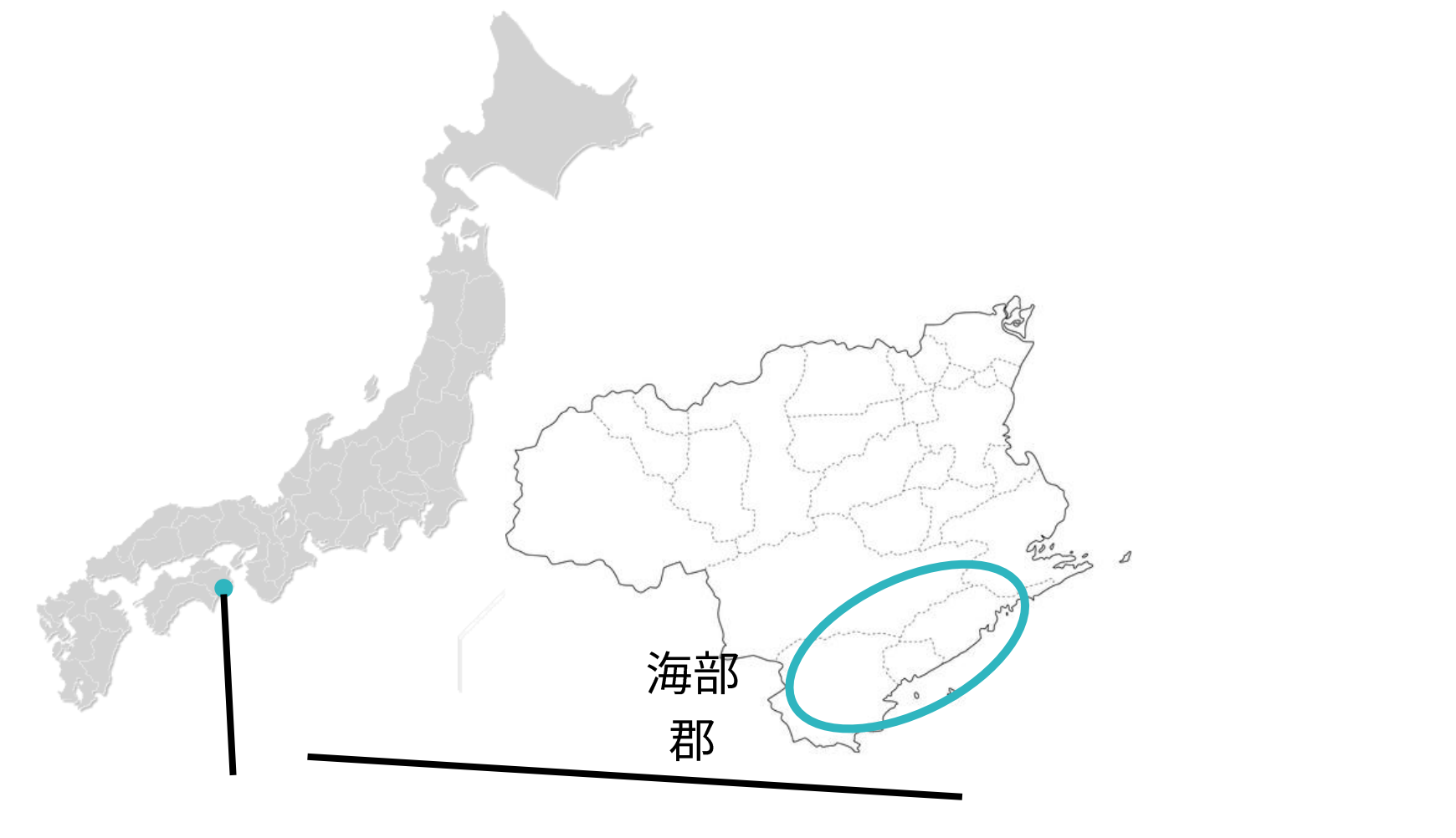
合計 約17600人

学校数

小学校6校 中学校5校 高校1校
学校規模 1学年1クラス

特徴

自然豊かで、もともと漁師町
大学進学・就職などで人口流出



団体概要

団体名

一般社団法人うみのこてらす
(2021年3月活動開始2023年10月設立)

活動の経緯

2020年8月～	大学生2人の企画からスタート・準備期間
2021年3月～	初の居場所 中高生の居場所（長期休み）
2022年6月～	週1で中高生の居場所実施
2022年9月～	週1で不登校児童生徒向け居場所開設

活動内容

居場所事業



ゆあぷれ

中高生向けの居場所



フリースペースわれもこう

不登校児童生徒向けの居場所

繋がり事業



てらす食堂

こども食堂

その他の活動

- 学校連携
- 社会福祉協議会連携
- 保護者相談
- 訪問支援

理事メンバー



代表理事
川邊 笑
筑波大

教育学類4年



山下 真也
元小学校教員
10年間



中村 暉梨
LICHT Consulting (株)
代表取締役
中小企業診断士



大西 浩正
NPO法人牟岐
キャリアサポート
理事長

実績

ゆあぷれ	延べ：560人
われもこう	登録：25人
てらす	毎食：50食

活動の目標

■具体的な活動の成果（アウトカム）の設定（1年目）

事業名	主な受益者 (優先度「高」のみ)	活動内容（アウトプット） 提供するサービス		活動の成果（アウトカム） 受益者の変化・向上	
		何を（活動内容）	どのくらい(数量、程)	何を（活動の成果）	どのくらい(数量、程)
『アウトリーチ型個別伴走支援』のモデル作り	引きこもり状態の様々な困難を抱える子ども・若者/距離の問題・送迎の問題等で拠点に通いにくい様々な困難を抱える子ども・若者（20歳前後）	個別訪問ならび伴走支援	定員4人	・安心して2者関係を築き、話せる ・次の支援につながっている	参加者の70%以上が2段階以上UP
『困難を抱える保護者相談支援』	①の保護者・悩んでいる保護者	保護者相談	年間24回程度実施	保護者さんの不安が軽減され、子どもへ関わりの理解と今後のサポートの方針を考えられ、結果子どもとの関係がより良くなる。	参加者の70%以上が5段階中4段階以上
『オンライン支援実施準備研修・勉強会の実施』	オンライン学生ボランティア	研修ならびに勉強会	年2回程度	ボランティアが、オンライン支援でのポイントやスタンスを理解して、自分の団体でどう活かすのか考えている。	参加者の70%以上がポイントを押さえている
(活動基盤の強化) 『ノウハウポイント集作成とボランティア育成研修の実施』	支援者・ボランティア	ノウハウポイント集作成 定期アドバイス会	年4回程度	他の人にも伝えられるぐらいノウハウが言語化され、対応力が向上している。	スタッフ2名→4名 4段階以上のスキル2名以上

活動内容	実施内容	成果
『アウトリーチ型個別伴走支援』のモデル作り	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで4名の小学生～中学生までの引きこもり傾向のある子どもに訪問を実施 ・SSW・相談員・福祉課との連携するため訪問 ・先駆的団体からの研究会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・うち1人は居場所につながる、1人は家の外に出られるように、2人はいまだ会えず
『困難を抱える保護者相談支援』	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで16人の方の保護者相談にのる継続で行うよりも、単発での利用が多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう限界です、という保護者さんと話、学校の先生等との関わりをアドバイス ・不登校の子たちの進路アドバイスも実施
『オンライン支援実施準備研修・勉強会の実施』	<p>大学生のコアメンバーを探し中</p>	
<p>(活動基盤の強化)</p> 『ノウハウポイント集作成とボランティア育成研修の実施』	<ul style="list-style-type: none"> ・認定NPO法人Leaning for Allのマネージャーからノウハウ共有会を実施 ・心理職のアドバイザーにアドバイスいただく 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルvol.1とポイント確認 ・関わりのポイントをアドバイスいただき、実際に学校等との連携スタート

課題①

活動内容	課題	原因
『アウトリーチ型個別伴走支援』 のモデル作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ いまだに繋がれない家庭がある ・ 行政等との連携をするも、早期から繋がれない家庭もある ・ こどもたちの自立のペースは思っているよりゆっくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周知不足ならびに、知ってもらっているけど進めるほどではない関係で終わっている ・ 家に来るというハードルの高さ ・ 行政等との情報連携・役割分担不足
『困難を抱える保護者相談支援』	継続で行うよりも、単発での利用が多く、保護者の変化までの成果は出せない	そもそもの事業立て付けがそうになっている
『オンライン支援実施準備研修・勉強会の実施』	—	—
(活動基盤の強化) 『ノウハウポイント集作成とボランティア育成研修の実施』	他団体等とのアドバイスもいただくが、リソースが違うので難しい ノウハウ等を記録していく仕組みが必要	地道にオリジナルを作っていくしかないが時間がかかる

全体的に

- ・ 関係者機関への年度はじまりの挨拶回りと活動紹介
- ・ 連携体制の決定
- ・ ぱっとわかりやすい活動の紹介物とSNSの動線作成
- ・ 地道なノウハウ蓄積



ハイブリット型 過疎地域こども支援モデル

地方の新たな
こども・若者支援インフラ

対面支援とオンライン支援を組み合わせたモデルで、徳島県から全国の過疎地域へと切れ目のないサポートを広げていきます。



地域のあらゆる機関やあたたかな人のつながりで地域ネットワークを作り、支援が必要なこどもと早期からつながり、ひとりひとりに合った切れ目のないサポートを届けていく。



オンラインプラットフォームで、大学生や社会人がこどもに伴走することで、ナナメの関係やロールモデルとの出会いへとつなぐ。定期的な対面の面会を取り入れることで、つながりがより深まる。



派遣型オンライン学び支援

その他・メディア等



子どもまんなか
子ども家庭庁

